

日本「アジア英語」学会ニューズレター第13号 Japanese Association for Asian Englishes

JAF AE Newsletter

No. 13 (August 2003)



第 1 3 回 全 国 大 会 、 早 稲 田 大 学 に て 開 催

日時: 2003年6月28日(土)
10:00~18:30

プ ロ グ ラ ム

大会総合司会: 相川真佐夫(和歌山信愛女子短期大学)

10:00 開会の辞: 矢野安剛(早稲田大学)

会長挨拶: 本名信行(青山学院大学)

10:10 - 11:40 特別講演: Curtis McFarland (早稲田大学)
"Filipino English"

11:40 - 12:00 会員総会

12:00 - 13:30 昼食休憩

13:30 - 15:30 シンポジウム

テーマ: 「フィリピン英語の諸相」

司会: 河原俊昭(金沢星稜大学)

発題: 小野原信善(香川大学)

浅川和也(東海学園大学)

大和田栄(東京成徳短期大学)

小張順弘(デラサール大学大学院博士課程)

15:30 15:45 休憩

15:45 - 17:45 研究発表 司会: 竹下裕子

(東洋英和女学院大学)

1. 「中華系シンガポール社会におけるエリート層の言語選択 英語・華語・中国語方言の役割」

原田慎一(早稲田大学)

2. 「インド英語文学作品に見られるインド的英語の使用とその日本語への翻訳の実態」

谷田恵子(清泉女子大学)

3. 「センター試験(日本)と修学能力試験(韓国)を多角度から見る~Readabilityという観点を中心にして」

長谷川由美(高麗大学)

4. 「"Error-free"の英語教育~Errorologyの立場から」

末延岑生(神戸商科大学)

閉会の辞: 橋内武(桃山学院大学)

18:30 懇親会(大隈ガーデン)

「フィリピン特集」の第13回 全国大会(レビュー)

橋内武(桃山学院大学)

第13回大会は、さる2003年6月28日に早稲田大

学大隈小講堂で開かれた。今回は特別講演とシンポジウムからして、フィリピン特集であった。午前の部は開会の辞(矢野安剛)と会長挨拶(本名信行)のあと特別講演に移り、フィリピン諸語の専門家であるCurtis McFarland教授がFilipino Englishについて講演した。要旨は以下の通り。

スペインの植民地から脱却したフィリピンは、アメリカの支配下で英語が公用語化されて、それが政治・教育・メディア・ビジネスの言語として使われ、様々な民族語を圧する力を持つに至った。フィリピンの複雑な言語事情を背景に成立したフィリピン英語は、多様な言語の影響を受けている。発音はその話者の母語によって異なるが、総じて母音の数がより少なく、子音の/f, v/が/p, d/で置き換えられるのが一般的である。だから、タガログ語話者は国語のことをフィリピン語でなくピリピン語と言う傾向にある。文法上の特徴としては、不可算名詞が可算名詞として使われたり、三人称単数現在の動詞の-sがつかないなどの点が挙げられる。その語彙はフィリピン諸語、スペイン語、中国語からの借用が目立つ。このようにフィリピンの言語事情から解きおこし、タガログ語とフィリピン英語とその接触言語であるタグリッシュについても触れた学識豊かな講演であった。

午後の部は、シンポジウムと研究発表からなっていた。シンポジウムのテーマは「フィリピン英語の諸相」であり、河原俊昭氏の司会で、小野原信善、浅川和也、大和田栄、小張順弘の各氏がそれぞれの得意とする分野から発題を行った。小野原氏は「若者による機能的母語としてのフィリピン英語の使用とその背後に働く原理」について述べ、浅川氏はフィリピンのNGOとの交流について語った。大和田氏はフィリピンの新聞・雑誌の類から集めた豊富な用例をもとにタグリッシュにおけるコード混合の様を発表した。最後に小張氏は開発援助の仕事に関わる中で培ったポストコロニアル的立場と自身の「対照言語学-日本語とフィリピン諸語」の授業を通して起きた日本人学生の意識改革を披瀝した。

午後の後半には、4本の研究発表が行われた。第一に「中華系シンガポール社会におけるエリート層の言語選択 英語・華語・中国語方言の役割」(原田

慎一)、第二に「インド英語文学作品に見られるインド的英語の使用の日本語への翻訳の実態」(谷田恵子)、第三に「センター試験(日本)と修学能力試験(韓国)を多角度から見る~Readabilityという観点を中心に」(長谷川由美)、最後に「"Error-free"の英語教育~Errorologyの立場から」(末延岑生)。発表のスタイルが各々个性的であった。全体を通して質疑応答も活発で、閉会の辞(橋内)直後の懇親会も盛り上がった。

特別講演 Review

矢野安剛(早稲田大学)

第13回全国大会の特別講演は早稲田大学理工学部のCurtis D. McFarland教授のFilipino Englishであった。同教授はフィリピンでも高名なフィリピン諸言語の専門家である。講演は多言語社会フィリピンの現状をGive this guava to your brother. という文がフィリピンを代表する14の言語でどう表現されるかの例示で始まった。

教授によると、同国の人口の半分以上が話す主要な言語Tagalogは一切の外来語を排除した日本語みたいなもので、Pilipinoはそれを整備したものだが、ほとんどTagalogと同じ、FilipinoはTagalogに基盤を置くがその他の言語の要素を取り入れて豊かになった言語だという。また、Tagalogと英語をミックスしたものをTaglishというが、おそらくFilipino EnglishとTaglishはシンガポールにおける正統なSingapore EnglishとくだけたSinglishと似たような関係にあるのであろう。

いろいろな例で示されたように、「第2言語としての英語」国であるフィリピンでは、英語が公用語として日常的に使用される結果、言語および言語使用がフィリピンの文化、風習、発想、価値観などを反映して「フィリピン化」せざるを得ない。また、そのような独自の言語使用の基準が発達していくのも自然な成り行きである。そうして形成されてきたFilipino Englishの表現や使用を、英語母語話者の基準で正用だ誤用と判断するのか、それともフィリピンらしい創造的使用と見るのかは意見の分かれるところであらう。

いずれにせよ、元植民地で、英語を第2言語として使用している国々はいずれも、文化的、国家的アイデンティティーのために英語の「地域種」を使うこと(communal use)と経済のグローバル化で必然的に対処を迫られている国際コミュニケーションのために「標準種」を使うこと(international use)のはざまで苦しむことになる。

しかしながら、通信技術の発達のおかげで自国に居ながらにして世界とのコミュニケーションが可能になった現在、知識・モノ・人の交流が促進されてきたために、それぞれの地域で土着化され内在化さ

れた英語の相互理解度が格段に高まっている。同教授が例示したようにcomfort room、gasoline boy、infanticipatingなどのフィリピン英語は初めて耳にしても、目にしてもそれほど理解しにくい表現ではない。ちょうど、フィリピン人ガイドが「私たちは女中や男中として世界中に出稼ぎに行きます」と言っても、母語話者の我々は使わないが「男中」の意味はすぐに理解できる。このような「創造的な」使用が英語の国際化、共通語化を促し、世界的な規模での相互理解を促進すると思われる。であるなら、このような「創造的な」英語の使用はもっとポジティブに見ていいのではないか。

「国際英語」の教育実践

日野信行(大阪大学)

2002年11月の本学会第12回全国大会において、特別講演という身に余る機会を得ましたが、その中で、国際英語(EIL)の教育を目指す自分なりのつたない授業実践の例を若干御報告いたしました。この部分は『アジア英語研究』第5号掲載の講演論文では割愛しましたが、ニューズレターに書いてはどうかとお勧めがあり、ここに一筆失礼いたします。

かつて講師をつとめたラジオ英語教育番組『百万人の英語』では、さまざまな地域出身の英語非母語話者と日本式英語の話者である自分との対談を行いました(1989年~1990年放送分)。この番組では米国人のゲストに加え、マレーシア、香港、スリランカ、バングラデシュ、フィリピンそしてフランスからのゲストを招いたのですが、国際英語の多様性とそのコミュニケーションの実例を、日本の英語学習者に知ってもらうことがその目的でした。

大学における最近の自分の授業では、たとえばCALL教室においては、授業の前夜もしくは当日の朝に録画したりスニング素材としてのテレビ英語ニュースとともに、同じ内容を扱ったインターネットのニュースサイトをリーディング素材として併用し、時間との闘いのような授業準備ながらなんとかリアルタイムに近い時事英語教育を行っているところです。この中で、CNNやBBCのような英米のメディアだけでなく、NHK-BS1の香港、シンガポール、フィリピンの放送局からのニュースや、The Straits Times(シンガポール)やThe News(パキスタン)その他のウェブページも用いて、国際英語の授業としての性格を打ち出そうと努めています。

ライティングのクラスにおいては、日本式英語での自己表現力の養成のために様々なライティング活動を考案して実施しています。たとえば、任意のトピックについて学生各自が自分の主張を書いた作文を私がランダムに配り、それぞれ自分の前に来たものにコメントを付ける「やみなべ英作文」、各自が1行ずつ書き加えてストーリーを作っていく「駅伝

英作文」、洋楽のヒット曲の歌詞に学生が「返歌」を書く「万葉英作文」、歴史上の人物に学生が手紙を書き、私とその人物に代わって返事を書く「恐山英作文」などです。

ライティング練習の中で、冒頭に主題文を置いた上でそれを敷衍していくという英米式のパラグラフ構成も紹介し、参考までにいくらか体験もさせますが、アングロ・アメリカンの思考様式に基づくこのような談話規則に無理に従う必要はないということも学生たちに伝えてあります。私の授業ではこの文章作法を「アメリカ人英作文」と呼び、その普遍性を否定していません。

学界における EIL の理論的研究の豊富さに比べると、その具体的な教育実践はこれまでかなり限られているのが実情のようです。国際英語の理念を絵に描いた餅に終わらせないよう、日々の授業における模索を続けていく所存です。

フィリピン研修旅行

加藤三保子（豊橋技術科学大学）

本学会主催のアジア研修旅行第 2 弾として、今年 3 月にフィリピン研修旅行がおこなわれた。3 月 17 日から 22 日までの 6 日間、総勢 12 名がマニラに滞在し、フィリピンの言語事情・教育事情について視察研修をおこなった。

最初の訪問先はデラサール大学（カトリック系の私立大学）である。ここには 3 日間通い、元文部大臣や文部次官を含む、フィリピンを代表する著名な講師陣からフィリピンの言語事情（特にフィリピン英語やコード・スイッチング）に関する話を拝聴した。なお、3 日目にスピーチいただく予定のパウティスタ氏（金沢で開催した本学会第 10 回大会で基調講演者）は、あいにく体調を崩されたため、彼女のお弟子さんが原稿を代読された。

授業参観はデラサール大学およびフィリピン・ノーマル大学付属高校、小学校でおこなわれた。特に印象に残っているのは、ノーマル大学付属小学校での英語授業である。教室には 1 年生児童が 40 名ほどおり、いわゆる大人数の教室であるにもかかわらず、教師は実にうまく子どもたちをコントロールして授業をすすめていた。カラスが主人公の物語を題材に、教師の手作り教材をふんだんに使い、語彙や発音、パラグラフごとの内容把握へと話をすすめる。

もちろん、先生も子どもたちも授業中はすべて英語で話す。途中、クラス全体を立たせてゲーム感覚で体を動かす時間も入れ、子どもたちの楽しそうな表情が今も脳裏に焼き付いている。大人数であっても、工夫ひとつでみごとな授業が展開できることを実感した。

今回の研修旅行では、クバオまで足をのばして古書店（学術書などが安価で購入できるらしい）を訪

問する予定もあったが、都合でこちらへ出向けなかったのは残念であった。しかし、マニラ市内の大きな書店へ案内してもらい、広い店内を歩いて言語関係の本を何冊か購入できた。中でも *Dictionary of Philippine English for High School* はなかなかおもしろい。見出し語数 1 万 6 千の中になんか多くのフィリピン英語が含まれている。たとえば、国籍に関係なく肌が白い人であれば *That tourist is American.* と言ったり、時間厳守を *American time*、時間にルーズなら *Filipino time* と表現するところは、アメリカとの深い関わりが感じられる。このほか、外国人ビジネスマン向けに書かれた、フィリピン人と一緒に働くためのハウツー本も購入してみた。フィリピン人自らが著わした本だけに、冷静にフィリピン人気質が分析されており、フィリピンという異文化社会を理解するうえで大変参考になる。

今回の研修旅行を有意義に、たいへん楽しくかつ安全に終えられたのは、事務局および担当理事として企画段階から骨を折ってくださった河原俊昭氏のおかげである。ありがとうございました。

新入会員による大会の感想等

鈴木孝夫（慶応大学）

早稲田大学での大会に、初めて新入会員として出席して驚いた。こんな熱気に溢れる学会は初めてだ。講演もよかったし、発表も面白いものが多かった。末延氏の体験的研究発表には、面白いやらおかしいやらで大笑いしたが、こんな先生に習う学生は幸せと思う一方、先生の学内の立場はさぞ大変だろうなと、すこし心配になった。こんな学会を作った本名氏と、それを陰で支えている田嶋さんに感謝。

*JAF AE*JAF AE*JAF AE*JAF AE*JAF AE*JAF AE**JAF AE*JAF AE*JAF AE*JAF AE*JAF AE*JAF AE

奥平文子（東京女子体育大学）

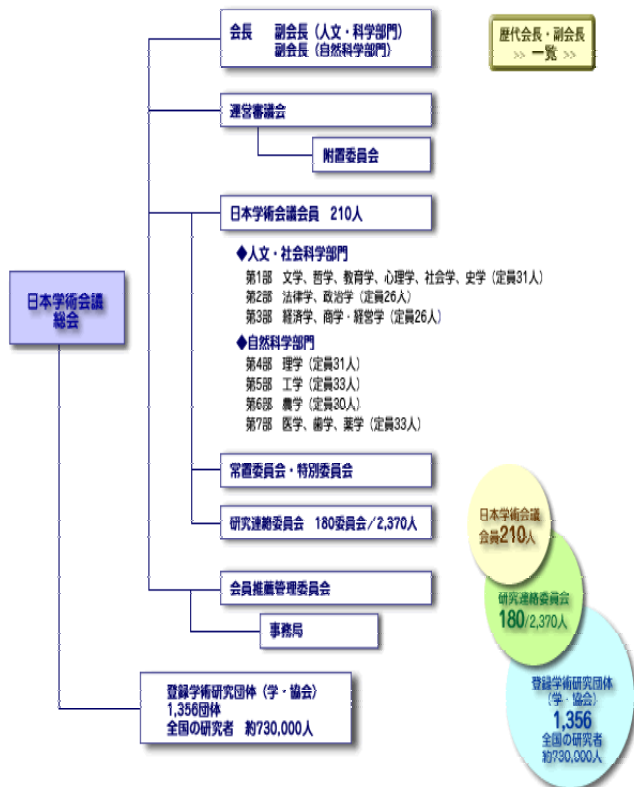
この度入会させて頂きました、奥平文子と申します。ミャンマー（ビルマ）連邦のヤンゴン（ラングーン）市で生まれ、ビルマ名を *Khin Thitsa*（キン・ティッサ/意味：friendly, sincere）と申します。現在、東京女子体育大学で英語の専任講師をしております。バイリンガリズム、異文化教育などに関心を持っており、また、ミャンマーの英語教育にも興味がありまして、毎年のように生まれ故郷に里帰りをしております。今回は、尊敬する金沢星稜大学の河原先生に誘われて大会に参加しました。シンポジウムでの河原先生の癒し系のお話ぶりに感動いたしました。今後、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本学術会議に関するご報告

竹下裕子 (東洋英和女学院大学)

本学会は、2002年5月に日本学術会議の学術研究団体としての登録申請を行ない、審査の結果、登録のための要件を満たした団体であることが認められ、第1部(文学、哲学、教育学・心理学・社会学、史学)に所属する学術研究団体に加えられました。これにより、学会としての学術研究活動と学会構成メンバーが高く評価されたこととなります。

日本学術会議のしくみは以下ようになっております。



登録団体の中から、毎年、選挙により、210名の日本学術会議会員が選ばれます。私たちが所属する人文・社会科学部門の第1部からは、31名を選出します。2003年4月、日本学術会議第19期会員選出作業が開始されました。本学会からも会員候補を出すことが可能でしたが、今年度は候補者を出さないという判断をし、推薦人のみを出すことにいたしました。推薦人として、竹下が登録いたしました。推薦人会議は、分野(部)ごとに開催され、各学術団体から出てきた候補者を、それぞれの部の単で検討し、日本学術会議を経由して内閣総理大臣に推薦するものです。5月、推薦人会議が招集され、第1部(文学、哲学、教育学・心理学・社会学、史学)の多数の候補者から、選挙により、総理大臣に推薦されるべき人々を決定いたしました。固有名詞は7月3日付けの文書において明らかにされています。近日中に、第19期日本学術会議会員の任命が行なわれる予定です。

す。

なお、学術研究団体の特典として、学術刊行物を郵送する際の、郵送料を減額していただける制度がありますが、本学会にもその特典が与えられております。

日本学術会議は、各地における公開講演会、シンポジウム、共同開催国際会議等の開催や出版物の発行を行なっております。詳細はホームページをご参照の上、それぞれのご研究にご活用ください。

日本語 <http://www.scj.go.jp/index.html>
 英語 http://www.scj.go.jp/eng_index.html

**World Englishes Workshop
開催のご案内**

吉川寛 (中京大学)

事務局からご案内のように、第14回 JAF AE 全国大会は12月6日(土)に名古屋の中京大学で開催の予定ですが、翌日の12月7日(日)も同所で"World Englishes Workshop"を開催致します。中京大学国際英語学部の主催で行いますが、JAF AE 会員の方には無料でご参加いただけます。テーマは"Four Skills in World Englishes"として、国際英語(World Englishes)の観点から speaking、listening、writing、reading の4技能を考察しようというものです。特別講演、パネルディスカッション、研究発表などを予定しております。講演者やパネリストには、本学会の本名信行会長をはじめ Braj B. Kachru、Larry E. Smith、Paroo Nihalani などの著名な先生方をお願い致しております。詳細は JAF AE 全国大会案内と共に後日お送り致しますが、現在 JAF AE 関係者の方々のご協力をいただき鋭意準備中であります。私共も JAF AE 全国大会とこの Workshop が有機的に連携し、実りある集いにしたいと考えております。会員の皆様には大会と Workshop 共に是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

編集委員会から

吉川寛 (中京大学)

紀要原稿の募集

本学会紀要、『アジア英語研究』第6号の原稿を募集しています。研究論文、調査報告、書評、エッセイ等、奮ってご応募下さい。締め切りは2003年11月30日です。応募の節は、『アジア英語研究』第5号の巻末にあります投稿規定に従って原稿を作成し、学会事務局まで郵送下さい。第5号は応募数が前号より減少しました。今回は多くの会員の方々からのご投稿を期待しております。

JAF AE 刊行物の販売

JAF AE 紀要の『アジア英語研究』を販売しています。代金の 2,000 円（1 冊分、名目は資料代）と送料を事務局宛にお送り下されれば購入できます。学会の広報や財政にも貢献しますので、ご購入、ご推薦をいただければと思います。また、モノグラフも販売中（創刊号 500 円、第 2 号 600 円）ですのでこちらの方もよろしくお願い致します。

メーリングリストおよびホームページについて

徳地慎二（宮崎産業経営大学）

ML 及び HP 運営担当理事の徳地慎二です。総会でもお話ししたように HP を漸くリニューアルすることが出来ました。新しく掲示板を作成しましたので「アジア英語」に関するご意見などございましたら書き込みをお願い致します。なお、HP のリンク集を今後拡充し充実を図ってゆきたいと考えています。「アジア英語」やアジア情勢に関する情報を掲載しているウェブなどでリンク集にリンクすべきであるという情報をお持ちの会員はふるって事務局までご一報ください。また、会員の方で HP を既にお持ちで学会の HP にリンクを希望される方も徳地までご一報頂けるとありがたいです。なお、リンクを希望される HP は何らかの形で英語に関連するものに限定させていただきます。

会 計 か ら

河原俊昭（金沢星稜大学）

6 月 28 日の第 13 回全国大会で今年度の予算案が承認されました（次項参照）。予算に基づいて、今年度も紀要の発行、ニューズレターの配布、全国大会の開催などの盛りだくさんの活動が予定されています。なお、今年度の会費の振り込みを済まされていない方は、できるだけ早めに年会費の振り込みをお願いします。昨年度以前の会費が既納かどうか確かでない方は、会計担当の河原まで電子メールでお問い合わせください。なお、メールアドレスは：kawahara@sei-ryo-u.ac.jp

2002 年度決算・2003 年度予算

日本「アジア英語」学会 2002 年度収支決算

収入の部			
費用	決算額	予算額	増減
年会費	968,000	1,120,000	152,000
全国大会	156,500	550,000	393,500
(第 11 回大会白百合女子大学)	(76,000)		
(第 12 回大会天理大学)	(80,500)		
モノグラフ販売	5,450	50,000	44,550
寄付・補助金	90,000	0	90,000
(白百合大学)	(50,000)		
(天理大学)	(40,000)		

郵便貯金利息	11	0	11
繰越金	230,721	425,721	195,000
2002 年度収入合計	1,450,682	2,145,721	695,039
支出の部			
費目	決算額	予算額	増減
通信費	140,920	200,000	59,080
ニューズレター印刷費	108,570	110,000	1,430
紀要制作費	297,940	300,000	2,060
文房具	6,297	25,000	18,703
全国大会	173,745	560,000	386,255
(第 11 回大会白百合女子大学)	(124,225)	-	
(第 12 回大会天理大学)	(49,520)	-	
人件費	9,000	50,000	41,000
インターネット接続費	23,640	24,060	420
印刷代	14,600	30,000	15,400
雑費	38,556	50,000	11,444
次年度繰越金	637,414	796,661	159,247
合計	1,450,682	2,145,721	695,039

上記の通り、ご報告いたします。2003 年 6 月 28 日 会計 河原俊昭
2003 年度決算報告の監査を行った結果、適正であると認めます。

2003 年 6 月 28 日 会計監査 矢野安剛 藤田剛正

日本「アジア英語」学会 2003 年度予算

収入			
費目	2003 年度予算額	2002 年度予算額	増減
年会費	1,370,000	1,120,000	250,000
(正会員 250 名)	(1,250,000)	(1,000,000)	
(学生会員 30 名)	(90,000)	(90,000)	
(法学会員 1 名)	(30,000)	(30,000)	
全国大会	200,000	550,000	350,000
モノグラフ販売	10,000	50,000	40,000
大会補助金	100,000	0	100,000
前年度繰越金	637,403	425,721	211,682
合計	2,317,403	2,145,721	171,682

支出			
費目	2003 年度予算額	2002 年度予算額	増減
通信費	150,000	200,000	50,000
ニューズレター印刷費	110,000	110,000	0
紀要制作費	300,000	300,000	0
文房具	10,000	25,000	15,000
全国大会	300,000	560,000	260,000
人件費	30,000	50,000	20,000
インターネット接続費	24,000	24,060	60
印刷代	40,000	30,000	10,000
事務局運営費	80,000	0	80,000
雑費	80,000	50,000	30,000
次年度繰越金	1,193,403	796,661	396,742
合計	2,317,403	2,145,721	171,682

会 員 の 新 刊 書

『言語政策としての英語教育』（広島修道大学学術選書 22）山田雄一郎（広島修道大学）著 溪水社
3500 円(税別) ISBN 4-87440-760-9

事務局からのお知らせ

分科会・研究開発について

当学会もおかげさまで会員が 250 名を超えました。これからは、年 2 回の全国大会だけではなく、地域別やテーマ別で分科会や研究開発を行っていききたい

と思います。興味のある方は、事務局までご連絡ください。

次大会について

第14回全国大会は12月6日(土)に名古屋の中京大学で開催いたします。12月7日(日)に中京大学でWorld Englishes in the Classroomというワークショップが開かれることになっており、そのためにBraj Kachru氏とLarry Smith氏が来日することになっておりますので、JAF AEの大会にもご参加いただけるよう交渉中です。今度の大会は、発表、シンポジウム共、できるだけ英語で行いたいと思いますので、会員の皆様、是非この機会に英語でご発表ください。

Our 14th national conference will be held at Chukyo University in Nagoya. Chukyo is planning to invite Prof. Braj Kachru and Mr. Larry Smith for their workshop entitled "World Englishes in the Classroom." We are trying to make our program accordingly and to hold our next conference almost all in English. We welcome your paper presentations and active participation. Please see the Call for Papers for details.

海外研修について

次の海外研修は台湾に行きますが、現在のところ詳細はまだ決まっておりません。また追って会員の皆様にご連絡いたします。なお、台湾研修のまとめ役は相川理事にお願いしております。

第14回全国大会研究発表者募集

第14回全国大会(2003年12月6日(土)、中京大学)で研究発表を希望される方(会員に限ります)は、要旨(日・英どちらか)をA4用紙1枚程度にまとめて、10月6日(月)必着で、電子メール、FAXまたは郵送にて、事務局(奥付参照)までお送り下さい。

CALL FOR PAPERS for the 14th National Conference on December 6, 2003 at Chukyo University in Nagoya

The Conference Committee invites submission of abstracts for papers. Submission is by e-mail, fax or mail. Abstracts for papers should be no more than 250 words in length. The deadline is Monday, October 6, 2003. Please send it to the JAF AE Secretariat (address below).

国際会議情報

The 6th International Symposium on Applied Linguistics & Language Teaching Beijing - Shanghai

Date: October 7-15, 2003
Venue: Beijing and/or Shanghai
For details, contact Kevin Zhang at [kevinzzh@vip.163.com]

The Twelfth International Symposium and Book Fair on English Teaching

Theme: Curriculum Reform in ELT
Date: November 7-9, 2003
Venue: Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei, ROC
For details, visit http://www.eta.org.tw/eng_news/eta_welcome/index.html

Joint International Conference organised by INGED-Turkey, BETA-Romania, ETAI-Israel & TESOL-Greece: Multiculturalism in ELT Practices: Unity & diversity.

Date: October 10-12, 2003
Venue: Turkey Baskent University, Ankara, Turkey
For details, contact: Eda Isik Tas : taseda@softhome.net or visit <http://www.inged-elea.org.tr/>

The 5th International Conference of the Chulalongkorn University Language Institute

Theme: ELT in a Globalized World: Innovations and Applications
Date: December 15-17, 2003
Venue: Royal Orchid Sheraton Hotel & Towers, Bangkok, Thailand
For further information, please contact: Kalayanee Ruangmanamongkol, Head of Secretariat, Chulalongkorn University Language Institute
Fax: (66-2) 218-6031, 254-7670
E-mail: kalaynee.r@chula.ac.th

<編集後記>

7月下旬、カルフォルニア州立大学で開かれた国際会議で発表しました。日本では太めの私もアメリカでは細めのように錯覚できて嬉しかったのですが、肝心の発表は時間オーバーで反省一杯でした。

ニューズレターへの投稿を歓迎いたします。エッセイ、情報、書評などを事務局までどしどしお寄せ下さい。

2003年8月14日発行

編集・発行 日本「アジア英語」学会

代表者 本名信行

編集長 榎木蘭鉄也

発行 (有)タナカ企画

事務局 〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25
白百合女子大学 田嶋宏子研究室内

FAX: 03-3326-4550 E-mail: tina2@gol.com

学会ホームページ:

<http://www1.linkclub.or.jp/~jafae>

年会費振込先: 郵便振替 00280-8-3239

<< JAF AE Secretariat >>

Professor Hiroko Tina Tajima

Department of English, Shirayuri College

1-25 Midorigaoka, Chofu-shi, Tokyo 182-8525 JAPAN

FAX: 03-3326-4550 E-mail: tina2@gol.com

JAF AE's homepage: <http://www1.linkclub.or.jp/~jafae>

JAF AE's postal transfer account number:

00280-8-3239